

複数言語社会香港における 継承日本語学習者の 多様な言語学習環境



北海道文教大学

佐野 愛子

2018/3/10 河合科研最終報告会

本科研における本研究の位置づけ

「多文化状況下で共生的な適応ができる人間こそが、これからのグローバル人材の人物像である」との認識に立ち、加速度的に経済・文化の交流が盛んになりつつある東アジア圏における複言語主義的な言語社会の構築へ向けた課題に応える

高い多言語能力(高度バイリテラシー含む)を有する人材の必要性
その発達支える教育的支援とはどのようなものか

香港在住の日本人子弟・国際結婚家庭の子女の日英バイリテラシー発達
カナダでの先行調査(Sano et al., 2014; 佐野, 2016)と比較
⇒アジア圏の多言語能力育成のあり方を考察

本研究で行った調査

調査1

高度バイリテラシーを
獲得した大学生
に対するインタ
ビュー調査

1. 母:日英 父:広英
カナダ生まれ香港
育ち
2. 母:広中日 父:日
英広中 香港生ま
れ上海育ち
3. 母:日広 父:広日
香港生まれ香港育
ち

調査2

複数言語環境香港
における多様なバイ
リテラシー教育の実
地調査

1. 日本人学校と併
設のインター
(アンケート調査)
2. 補習授業校
3. IB日本語を実施
しているインター

調査3

高度バイリテラシー
を育成するための
親たちの選択

PAC分析

「あなたの子育ての
中で言語にかかわ
る選択に大きな影
響を与えていると思
う要因は何ですか」

調査4

バイリンガル・マル
チリンガル教育に対
する社会的受容度

調査1

調査2

調査3

調査4

高度バイリテラシーを獲得した大学生に対するインタビュー調査

カナダにおける継承日本語学習者との違い

「継承日本語学習者であれば当然に日本語が堪能であるべきである」、という周りの
社会の規範観念の存在と、そこから生じるプレッシャー

⇒ Ought-to L2 self (Dörnyei and Ushioda,2009)

参加者A(母:日英・父:広英 カナダ生まれ

中3で自分の意志で日本語学校へ行き始めた)

なんか、母が日本人なのに日本語が読めないとか、日本語があんまり上手
じゃなかったから行きたいなと思いました。(中略)まあ、母は... 例えば、母また
は父が日本人なのに日本語上手に話せないという、他の人からプレッシャー
受けて、「どうして母日本人なのに日本語できないんですか?」と聞かれたこと
もあります。

調査1

調査2

調査3

調査4

高度バイリテラシーを獲得した大学生に対するインタビュー調査

継承日本語話者でありながら日本語が話せない知り合いをみたことによって表出した「自分はそうはなりたくない」という感情

⇒ Feared self (Dörnyei and Ushioda, 2009)

参加者B (母: 広・中・日 父: 日・中・英・広 香港生まれ、小2ー中2上海)

実は知り合いの中で私より5年か7年ぐらい年上のお姉さんがいまして、そのお姉さんは、家庭環境は似てる感じなんですよ。(中略)あのお姉さんは香港大学の医学部に合格したんですが、周りの知り合いとかに日本語に関する質問とか聞かれたときに、全く日本語話せないの、大学に入ってから日本語を学び始めたということを知りました。(中略)そういう、かなり微妙な立場に立ってしまったということ、そのお婆さんとおじさんがうちの両親と話してるのをたまたま聞き取れたあとに、はい、少し、そうですね、自分の未来を心配し始めた。

調査1

調査2

調査3

調査4

複数言語環境香港における多様なバイリテラシー教育の実地調査

1. 日本語教育を主としつつも英語教育を積極的に取り入れている日本人学校および同校舎に設置されたインターナショナルスクールの授業参観 (2015年4月23日及び2015年9月21日実施)
2. 複数言語社会香港で継承日本語を保持するための香港補習授業校の授業参観 (2015年4月25日実施)
3. 英語を学習言語とするIBプログラムの学習を行うインターナショナルスクールでの日本語の授業観察 (2016年1月12日から15日実施) とその指導に当たる教員へのインタビュー (2015年9月22日実施)

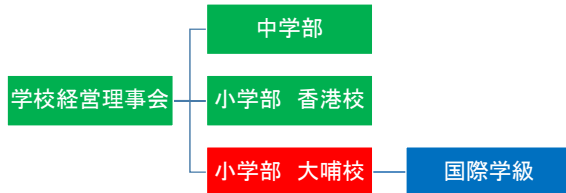
調査1

調査2

調査3

調査4

香港日本人学校及び国際学級の現地調査



学習指導要領準拠(派遣教員・検定教科書)
日本の学習環境をそのまま持ち込む
(机の配置・教授法のスタイル)
2017年4月時点で小1～小6 458名
国際都市香港に学ぶ利点
英語 (by native speakers) 毎日45分
水泳や図工の授業 by native speakers

「日本国政府の海外子女教育施策に基づき、香港に在住する邦人の学校教育に対する強い願いと創意によって設立された私立学校
昭和41年(1966年)5月に香港政庁より正式認可
極めて恵まれた施設:
図書館や体育館、プールなどの設備が充実

国際バカロレアのカリキュラム(教育言語:英語)
日本人学校の一部ながら独自の組織(校長別)
2017年4月時点で4歳～11歳 162名(20か国)
少人数教育でリテラシーを重視した授業
カリキュラムの中に日本語という科目も設定
タスクベースの授業:
ハロウィンと節分の類似性と相違点について考える
極めて自然にtranslanguaging が起きていた

調査1

調査2

調査3

調査4

日本人学校保護者アンケート調査(2015年12月実施)

児童の家庭及び学校での言語学習に関わる35項目

香港日本人学校大埔校(国際学級を除く)422名の児童の保護者全員を対象、112名より回答(回収率26.5%)

- 1. 移動頻度の高さ** 約2割程度が高度に移動性の高い環境で過ごしている
- 2. 香港生まれの児童が2割強** 在籍:67%は帰国予定なし:子どもの言語能力発達の手段としての学校選択
- 3. 父親の母語が日本である国際結婚家庭が13%**
- 4. 学校言語シフトの多さ:**44%がこうした滞在国内での学校言語シフトを経験:親たちの意識的選択
自由記述のコメント欄:

日英中を巧みに使い分けられるように今日は英語だけで会話、今日は広東語だけという訓練を家族でしています

母国語である日本語の確立を待ち、英語教育を小学校入学から開始させたが、もう少し早くに初めても良かったのではない

インターの時のように英語の会話レベルが維持できていない。でも日本語は伸びた。やはり環境によって日本語・英語の比重が変化する。どちらも同じように習得するのは難しい。

調査1

調査2

調査3

調査4

香港補習授業校の実地調査

- 「平日に現地校やインターナショナルスクールに通う日本人の子どもたちが、日本の文部科学省の学習指導要領に準拠し、週一回日本語で学ぶ場所」(学校HPより)
- 年長～小6 定数は204名
- 日本式授業スタイルのコースと継承日本語のクラス
- 保護者主体の運営委員会と保護者のサポートにより運営
- 保護者のボランティア
 - 宿題の提出状況チェック
 - 小テストの採点
 - 作文課題へのコメント書き

調査1

調査2

調査3

調査4

インターナショナルスクールにおける実地調査(Island School)

香港のインターナショナルスクール:

2017年11月時点 小学校19校、中学校8校、小学部と中学部併設校25校

Island School: 日本語のカリキュラムを持つ国際バカロレア校

Language BのHigher Level

Language BのStandard Level

Ab Initioの3つのレベルの日本語科目を提供

参観した授業: Higher level 7名とStandard level 4名が学ぶ最終学年G13(ディプロマ取得の学最終学年)の作文指導:新聞の記事の切り抜きや様々な読み物など,工夫を凝らした読み・書きの指導が行われており,極めてリテラシーを重視した指導

授業はすべて日本語で行われているが英語使用に制限なし

調査1

調査2

調査3

調査4

高度バイリテラシーを育成するための親たちの選択

2017年2月 香港在住の保護者8名を対象としたPAC分析

「あなたの子育ての中で言語にかかわる選択に大きな影響を与えていると思う要因は何ですか」



子どもが将来社会で成功するためのツールとしての語学力を身につけさせたい
 具体的に重視する点：親自身の経験や環境がその子育てにおける言語選択に大きく影響

選択の幅が大きい⇒ 教育費の高さ

特に母親の言語力に起因する子育てに関する不安要因

言語教育よりも広い意味での子育て全般にかかわる子供の意思の尊重といった考え方

日本語との接触が低いコンテキスト⇒親の言語観：思考力を支えるツール・アイデンティティの基盤

調査1

調査2

調査3

調査4

バイリンガル・マルチリンガル教育に対する社会的受容度

香港中文大学 手語及聾人研究中心訪問(2016/1/11)

SLCO(Sign Bilingualism and Co-Enrolment in Deaf Education) プログラム

香港手話と広東語と書記中国語によるマルチリンガルろう教育

聴の子どもたちも多数参加

⇒香港の保護者：幼児期から多くの言語に触れさせることのメリットを熟知

なるべく異なったタイプであればあるほどバイリンガルに育てるメリットは大きいと考える

日本ではろう児の教育は特別支援教育の枠組み

⇒ろう児がバイリンガルであるという視点に立った教育を行う学校は二校のみ

⇒公立校の場合 バイリンガル教育は選択可能性のひとつとして保護者に提供されている現状

保護者も本当に日本手話を教授言語とするアプローチが本当に効果的なのか、悩みながら選択
 バイリンガルアプローチのクラスと、手話付きスピーチのクラスが設定⇒極めて少人数のクラス

考察

香港の言語使用状況＝超多様性(Superdiversity; Vetrovec, 2007)

流動化する国際社会の中では一つのモデルケース

カナダの多言語主義社会とはまた趣を異にする部分も多い

- SESと言語の強固な結びつき⇒(Lin 1997 cited in Li, 2017)
- Ought to self, Feared selfに支えられた学習者のmotivation
⇒社会学的な視点での分析も必要
⇒親のビリーフに関わる調査も必要

日本も少しずつこうした状況が生まれつつある(e.g. HELES 2017の発表)

極めて多様な背景を持つ子どもたちの高度バイリテラシー発達のために有効な教育手法の開発は喫緊の課題

考察

SESと言語の強固な結びつき⇒(Lin, 1997 cited in Li, 2017, pp. 192)

Resources permitting, Cantonese-L1 parents would do any or all of the above [listed measures to enhance their children's English proficiency] just to ensure that their children would 'not lose out at the starting line' when it comes to beating that long, highly competitive selection process up the education hierarchy from preschool to tertiary, where one's life chances are bound up with how much progress in English they have made at every stage along the way.

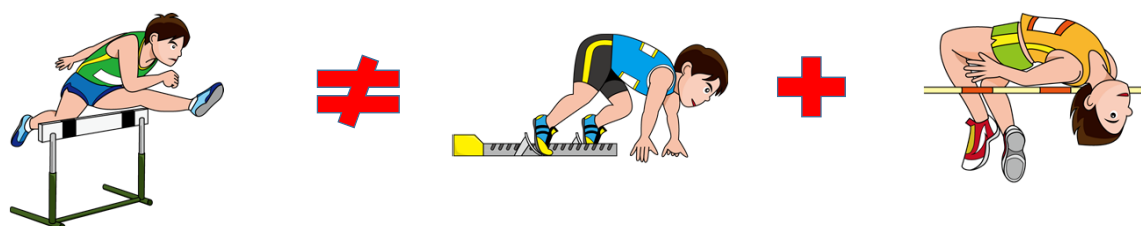
考察

Translanguaging (García & Wei, 2014)

バイリンガルによる言語間の自由な行き来をバイリンガル言語使用のノームとして積極的に評価

モノリンガルネイティブスピーカーを規範としてみた場合にどれだけ劣っているのかを見る, という旧来型の視点からの脱却し

バイリンガルの言語能力を総体として捉えつつそれをどのように発達させていくかという視座を提供



引用文献

Dornyei, Z., & Ushioda, E. (Eds.), *Motivation, language identity and the L2 self*. Bristol: Multilingual Matters.

Garcia, O., & Wei, L. (2014). *Translanguaging: Language, bilingualism and education*. London: Palgrave Macmillan.

Li, D. C. S. (2017). *Multilingual Hong Kong: Languages, literacies and identities*. Cham, Switzerland: Springer.

Vetrovec, S. (2007). Super-diversity and its implications. *Ethnic and Racial Studies*, 30, 1024-1054.



